

溝口ふき子さん 息子さんご家族と 一緒に

かねてから「息子の家に行きたい」と言われていた溝口ふき子さん。お盆に合わせて、息子さんのご自宅に伺いました。以下は、ふき子さんの感想です。

お盆のため、息子の家に行きました。みんなでごちそうを用意して待っていてくれました。スタッフさんに支えてもらい、玄関前から仏壇の前まで歩いて行きました。久しぶりにご先祖様にお参りし、とても気分が晴れました。その後、みんなでごちそうをいただき、昔の話や孫の話をして楽しい時間を過ごしました。

近頃、腰の痛みがあり、横になられていることが多いふき子さんですが、この日は歩いたり、長い時間座っていることができました。ご先祖様にしばらくお参りできていないことを気にされていたようで、とても喜んで下さいました。お仏壇の前で「お父さん、お母さん、2年ぶりに来ましたよ」といって手を合わせられる姿を見て、嬉しく思うと同時に、ご先祖様を敬う気持ちを忘れてはいけないと教えていただきました。（山本直美）



お孫さんたちとお参り



久しぶりの一家団楽

佐竹芳枝さん ご家族様と 恒例のお盆行事

佐竹芳枝さんのご自宅へお盆の12日に帰りました。「仏様を送り出したい。おしるかいを持ち帰り、皆に召し上がってもらいたい」とおっしゃっておられました。『おしるかい』とは佐竹家の伝統料理です。芳枝さんから「お盆に食べる夏野菜等を入れて作るお汁粥のことだよ」と教わりました。4月のお花見に続き2回目の帰省ですが、今回は玄関で2段の階段を上られました。続いて歩行器を試してみると、一歩二歩...芳枝さん自ら歩き出されました。以前、ご自宅でそうしておられた様で、自然に足が進んで行くお姿を見て私は驚きました。お仏壇の前まで歩かれ「疲れたけど歩けました！」と芳枝さんのお顔も満足気でした。久しぶりに会った義理の妹さんとの近況報告、昔話には終始笑顔で会話され、御招霊様を近くの川で送り出す時には静かに手を合わせておられました。お嫁さんの手作りの鍋いっぱいのおしるかいをすずの郷に持ち帰って、夕食時にみなさんに振る舞われ、送り盆の一日を過ごされました。（鈴木純子）

竹家の伝統料理です。芳枝さんから「お盆に食べる夏野菜等を入れて作るお汁粥のことだよ」と教わりました。4月のお花見に続き2回目の帰省ですが、今回は玄関で2段の階段を上られました。続いて歩行器を試してみると、一歩二歩...芳枝さん自ら歩き出されました。以前、ご自宅でそうしておられた様で、自然に足が進んで行くお姿を見て私は驚きました。お仏壇の前まで歩かれ「疲れたけど歩けました！」と芳枝さんのお顔も満足気でした。久しぶりに会った義理の妹さんとの近況報告、昔話には終始笑顔で会話され、御招霊様を近くの川で送り出す時には静かに手を合わせておられました。お嫁さんの手作りの鍋いっぱいのおしるかいをすずの郷に持ち帰って、夕食時にみなさんに振る舞われ、送り盆の一日を過ごされました。（鈴木純子）



佐竹家伝統のお盆行事



手を合わせて精霊流し



義妹さんと久しぶりの再会

山田秀子さん 恒例の御嶽山へ お墓参り

山田秀子さんが今年も娘さんと一緒にご先祖様のお墓参りをするために御嶽山へ行ってきました。秀子さんがすずの郷へ入居されて以来、毎年この時期に行っており今年で5回目になります。「大丈夫、上れるよ」とおっしゃってお墓までの階段を上られる姿「おじいさん来たよ」と手を合わせ娘さんとお経を読まれる姿にいつも感動させられます。滝の水で程よく冷えた桃と瓜を召し上がると「甘くておいしいなあ」といつもより自然と食が進んでおられました。頑張り屋で家族思いな秀子さんが見られたお墓参りでした。（安藤真）



ご自分の足で上がられます



お疲れ様でした

お盆

お盆の過ごし方はその家ごとに様々です。家族みんなで過ごされる方、お墓参りに出掛ける方、お盆ならではの習わしがある方...今回は5名の方のお盆の過ごし方をご紹介します。

服部悦雄さん ご自宅の馴染みの ソファでくつろぐ

服部悦雄さんは、懐かしいご自宅へ帰られました。家の中へ入り奥様のお仏壇の前に座ると、何も言わず静かに手を合わせる悦雄さん。そしてしばらく奥様の写真をじっと眺めておられました。その後、いつも座っておられた窓際のソファへ移っていただくとニコッと笑われ、昔のことを思い出されたのか色々と言られる悦雄さんでした。「この部屋でテレビを付けっぱなしにして、窓の外を眺めておられた」と甥のお嫁さんが教えて下さいました。施設でも、毎日のように中庭を眺めて窓際で日向ぼっこをされているのは、ご自宅での生活と同じように過ごされているのだと、一緒に自宅に行かせていただくことで知ることができました。

盆栽が趣味だった悦雄さん。自宅で育てておられた盆栽を持って施設に帰って来られました。今では、持ち帰った盆栽に水やりをするのが日課になっています。定期的にご自宅に帰りたいたいとおっしゃる悦雄さんや、ご家族の「自宅へ帰る機会を増やしてあげたい」というご希望にお応えしこれからも、住み慣れたご自宅に帰り、昔を懐かしんでいただきたいと思います。（吉岡達也）



まずは奥様にご挨拶



ご自宅ではいつもこのソファに



ご自宅から趣味の盆栽を持ち帰り毎日お世話



すずの郷



今月のベストショット

注だのゴクー宮の七夕祭り
あ文。つ、ゴクー宮の七夕祭り
一枚。おまタクの味訪り
で!!お酒み食味で飲
す。の程に度訪り
と召し上る。の刺えさ
上る。身を「ガレ
る。を」とミ
幸せはあぐも輪飲
な。く口「浩も
瞬間美の酒さ
を刺のうか
撮し身飲
うをんと

加藤武光さん 昔の職場と ご自宅へ

8月19日、念願のノリタケの森へ行かれた加藤武光さん。ミュージアム内では「こういう壺も見たい」とマイペースに見て回りつつも、スタッフがお皿の装飾の金を「これって本当に金なの？」と尋ねると「そう！」と教えて下さる等、ノリタケOBの顔を見せて下さいました。ミュージアムの企画展示、ノリタケの皿と歴史を楽しみにしていた武光さん。じっくり1枚1枚の皿を見られ、娘さんも「このお皿も家で見たい」と思い思いにお皿を見て回りました。昼食は武光さんのご自宅へ。ご家族の皆様がごちそうを用意して下さいました。武光さんはそうめんにお客様特製の茶碗蒸し、水ようかんをペロリと召し上がられました。ごちそうを前に固くなるスタッフに「何にもねえけど」「食べやー」と勧めて下さる武光さん。「家では王様」とご家族様の冗談に笑いつつも一家の家長として、いつもと違う武光さんを見る事ができた貴重な外出でした。（遠藤寛）



ノリタケの食器を眺めて



奥様と一緒に

地域の子供と 過ごす夏休み

8月のサークル活動は、子供も一緒にできる内容を考えました。近くの小学校へもお知らせをし参加者を募集すると、予想以上の反響で申し込みを頂きました。お料理サークルのデコ寿司作りではみんな夢中でカップ寿司を作り、個性溢れるデコ寿司が完成しました。お年寄りがボールをかき混ぜる時は子供たちがしっかりと支えてくれたり、お互いのデコ寿司を見せ合っ、普段とはまた違った賑やかな食事となりました。書道サークルでは子供たちが学校の夏休みの宿題を持参。自宅でやるより完成度の高い、素晴らしい作品が仕上がりました。師範の資格を持ってみえるお年寄りもたくさんみえ、以前、すずの郷の入居者だった鶴居さんも先生となって教えてくださいました。その他にも風船バレーやカラオケ、大かるた取りで遊んだり、風鈴やポップのにおい袋を作ったり、新学期の持ち物である雑巾を縫ったり

もしました。中でも女子に人気だったのはやっぱりネイルアートでした。婦人会では流しそうめんやスイカ割りと一緒にやったり、菜園サークルの畑で採れたスイーツ作りはゴーヤを混ぜたパンケーキ作りで盛り上がりました。特に「戦争体験のお話を聞こう」では紙芝居の後、以前すずの郷新聞でも一面となった、柏原杉義さんに戦争のお話を頂き、大変貴重な時間となりました。杉義さんは話し始めるとすぐに言葉に詰まり、涙をぼろぼろ流されました。子供たちの顔はしっかりと上がり、その真剣な眼差しに、参加していた他のお年寄りもみなさんご自身の戦争体験を一生懸命になって話してくださいました。

「私は当時、小学校2年生で母親に手を引かれ一生懸命走って逃げたわ。隣で一緒に逃げていた家族に爆撃があたり、小さな男の子が亡くなってしまったの。男の子の手にはりんごがしっかりと握りしめられて...今でもはっきり覚えている、...それ以来、大きな塊を見ると怖くなってしまいう日々が続いたんだよ」

話は本当に尽きません。参加されたお年寄りのほとんどの方が話してください、私たちも聞き足りないほどでした。またこのような機会を必ず設けようと思いました。

核家族が進む中、今回のコラボ企画のようにお年寄りと子供達とが一緒に過ごす時間はみんなが一緒になって笑顔になれる大切な時間となり、これからもすずの郷で面白い企画を考えていきたいです。
(浜嶋いづみ)



風鈴に子供の顔を書く川松さん 二学期に使う雑巾を手縫いで 子供のスイカ割りに大爆笑 誕生日の子をみんなで祝い 戦争体験に聞き入る皆さん

**米寿の誕生日を
ご家族と
林芳江さん**

**ご家族と
思い出に残る誕生日を**
大切なお誕生日をご家族と
過ごされた伊東みゑさんと
林芳江さんのご紹介です

**誕生日
伊東みゑさんの
魔法のこぼ**



88歳米寿の誕生日を迎えられた林芳江さん。芳江さん本人が、一緒に祝ってほしいと、娘さんご夫婦、お嫁さん、お孫さん、曾孫さんをすずの郷にお招きし、みんなで祝いしました。担当スタッフが、当日に飾る写真を数枚選択し、一枚にしたものを見て、「こんなに盛大に祝ってもらってありがたい」と、満面の笑みを浮かべて喜んでくださいました。食事は、多治見にお気に入りの美味しい手毬寿司があるとの事で、調理スタッフがその味を再現し、当日は芳江さんのお好きなものが詰まったお祝い御膳をご用意しました。手作りのチーズケーキが出てくると、これも美味しい！と言われていました。「折り紙で作った球にひもを付けたものを、曾孫さんの手首に通したら、嬉しそうに手を振って持って帰った!!すごく楽しい一日だった!」と。

その日は、誕生日会が終わった後も夜勤者に、翌日には朝から出勤した職員に、手毬寿司の話や誕生日会の話を楽しそうにされていました。また、来年もこうやって皆にお祝いしてもらいたいとおっしゃっておられました。
(柴田英里)

「みゑさん綺麗だね!!」「みゑさんおしゃれだね!!」伊東みゑさんにとって魔法の言葉。この言葉を聞くと、にっこり微笑んで、とても嬉しそう顔をされます。昔からおしゃれをすることが大好きだったみゑさん。言葉を発することが少なくなってしまっても、みゑさんにとって心に響く言葉があります。

8月2日。大好きな娘さんと81歳の誕生日をお祝いするために「カフェサルーテ」に行きました。飲み込みが上手くできず『食べる』ということが難しくなってきたみゑさん。お化粧品をして、とびきりおしゃれな服と素敵な空間で...そして何より大好きな娘さんと一緒なら、少しでも美味しく食べてもらえるかもしれない...そんな想いに駆られて出掛けることになりました。

当日、花柄の浴衣を着て居室からユニットフロアへ登場!!「みゑさん綺麗!!」「みゑさんステキ!!とっても似合うよ」会う人会う人から掛けてもらった言葉に、みゑさんに魔法がかかりました。注文した彩りのいいおしゃれな食事を、娘さんが愛情を込めて一口一口ずつゆっくりとみゑさんの口へ運ばれました。それに応えるかのようにみゑさんは口をあけ2時間かけて召し上がられました。最後に運ばれてきたサプライズの誕生日ケーキ。甘いスイーツは、みゑさんの大好物。みゑさんは、ゆっくり味わいながらケーキを全て完食されました。

娘さんとの素敵な誕生日のひとつ。私にとって、きっとみゑさんや娘さんにとっても、とても大切な思い出になりました。
(小林由記子)



スタッフからの手作りケーキ 沢山のご家族に囲まれてお祝い



綺麗な浴衣を着てランチ 沢山食べることができました サルーテのランチ 娘さんが愛情込めて口へ運ばれる姿に感動

武光観光だより ~ 幻想的な木曾川鵜飼 ~

武光観光9月は、木曾川鵜飼に出掛けました。皆さん車椅子を岸に置いて、頑張って船に乗り込まれました。20人乗りの船を貸し切って、鮎の塩焼きが入った豪華お弁当を食べて大宴会。ライトアップされた犬山城をバックに秋の風が感じられる気持ちの良い宴会となりました。鵜飼が始まると、皆さん幻想的な様子にうっとり。杉山良子さんは、1週間前からこの日を楽しみにしておられたそうです。「おばあちゃんがくれたから鵜飼を観ることができた」とご家族がおっしゃっているのを聞いて私たちも嬉しくなりました。11月の武光観光は、情緒あふれる妻籠への旅です。締め切りは10月1日。沢山のお申し込みをお待ちしています。(佐久間恵美)



皆さん頑張って船の乗り降り 旅は最高のリハビリです 豪華なお弁当 貸切船で大宴会 鵜飼に釘付け良子さん